



## ミャンマードダンスから現地理解 ～ミャンマー・ヤンゴン～



ヤンゴン日本人学校 久保田智絵美

ミャンマー連邦共和国の旧首都ヤンゴンでは、毎年春、「黄色い絨毯」が道路を覆います。日本でサクラが春の訪れを告げるように、ミャンマーでは、一年に一度だけ黄色い「パダウ」が咲き、雨季の到来を感じさせます。パダウの花が咲いた日は、ミャンマーの人々はパダウを髪飾りにしたり、お店に飾ったりします。学校の校庭にもパダウの木がありますが、満開に咲いた日には校舎まで匂いが漂ってきます。

ミャンマー連邦は、北緯10度から28度の間に位置し、面積は約680,000km<sup>2</sup>（日本の約1.8倍）、南北に伸びる長い国土が特徴です。タイ、ラオス、中国、インド、バングラデシュと国境を接し、約135もの民族が居住しているのも特徴の一つです。

ヤンゴン日本人学校は、ヤンゴンの南部にあり、すぐ近くでシュエダゴンパゴダ（日本でいうお寺）が黄金に輝いています。子ども達は、朝からお坊さんの托鉢や一日の始まりの活気ある露店などを目にしながら、車で通学しています。

今年度3年ぶりに対面授業が叶ったヤンゴン日本人学校では、コロナ前までできていた校外学習がほとんどできないのが現状です。その中で現地理解をすすめるためと体力増進を目的にミャンマードダンスを取り入れた授業を行いました。現地のスタッフさんをお願いして、新年に行われるティンジャン祭りで踊られるダンスをしました。ティンジャンは4月新年に行われるミャンマー最大の祭りです。

ミャンマーにいてもミャンマーの人々が日々をどのように暮らし、その中で何を楽しみとしているのか知らない子ども達も多いです。今回のミャンマードダンスの振りの中には、平和を願う神様や水撒きの形がありました。全体的に柔らかな振りをするミャンマードダンスは踊りやすく親しみやすいと好感をもたれました。学校公開日に行った授業であったため、全校園児児童生徒、保護者、職員とみんなと一緒に踊ることができました。当日は現地のスタッフさんや現地採用の先生とお揃いで、ミャンマーで昔から着られている波模様柄のロンジー（ミャンマーならではの衣装）やスカートを着てダンスに臨みました。子ども達からは「文化祭でも踊りたい」と、保護者の方からは、「ミャンマーにいたが、なかなかダンスをする機会がなかったので、良い機会をもらった」という感想をもらいました。ミャンマーのダンスや衣装を通して、現地のスタッフさんとかかわり、一緒にミャンマー文化を楽しむ良い機会となりました。

今後も、日本文化の学びとミャンマーにいたからこそできる学びを深める中で、グローバルな視点で物事を考えられる子ども達の育成に携わっていきたいです。

